
2007年度 決算説明会

2008年 5月12日



三菱ガス化学株式会社

本日の出席者

取締役社長

酒井 和夫

機能化学品カンパニープレジデント

梅村 俊和

特殊機能材カンパニープレジデント

宮坂 一博

芳香族化学品カンパニープレジデント

塚本 耕三

天然ガス系化学品カンパニープレジデント

上石 邦明

財務経理センター長

杉田 克彦

本日の進行次第・配付資料

進行次第

1. 2007年度決算
2. 質疑応答

配付資料

- ・スライドコピー
- ・決算説明会参考資料
- ・2007年度決算短信
- ・ニュースクリッピング集
- ・英文事業紹介冊子
- ・アンケート用紙

サマリー

2007年度(実績)概要

売上高	: 5,193億円	…	初めて5,000億円台となる
営業利益	: 474億円	…	11月予想を確保
持分法利益	: 213億円	…	メタノール価格の高止まりにより高水準を維持
経常利益	: 618億円	…	期末の急速な円高により、為替差損を37億円計上し、前期並みにとどまる

2008年度(予想)概要

売上高	: 5,400億円	…	機能製品の販売数量増加で伸長
営業利益	: 300億円	…	高純度イソフタル酸と半導体・液晶向け製品の採算悪化、固定費の大幅増加と円高の影響等で減益
持分法利益	: 190億円	…	メタノール関係会社は堅調に推移
経常利益	: 450億円	…	3割程度の減少を見込む

連結 2007年度実績

【億円】

	2007年度	2006年度	増減
売上高	5,193	4,826	367
営業利益	474	422	52
(持分法利益)	(213)	(232)	(▲ 19)
経常利益	618	617	1
税前利益	561	526	35
当期純利益	402	400	2

有利子負債	1,506	1,639	▲ 143
期末総資産	6,014	6,100	▲ 86
D/Eレシオ	0.50	0.58	▲ 0.08
ROA*	10.2%	10.5%	▲ 0.3%

* 経常利益ベース

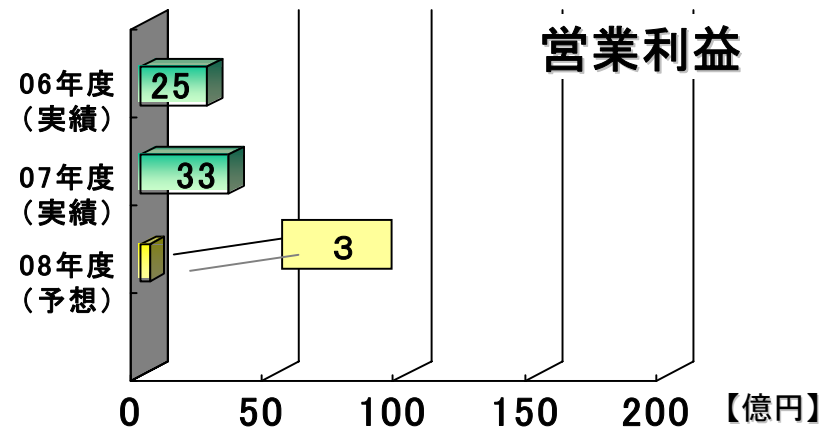
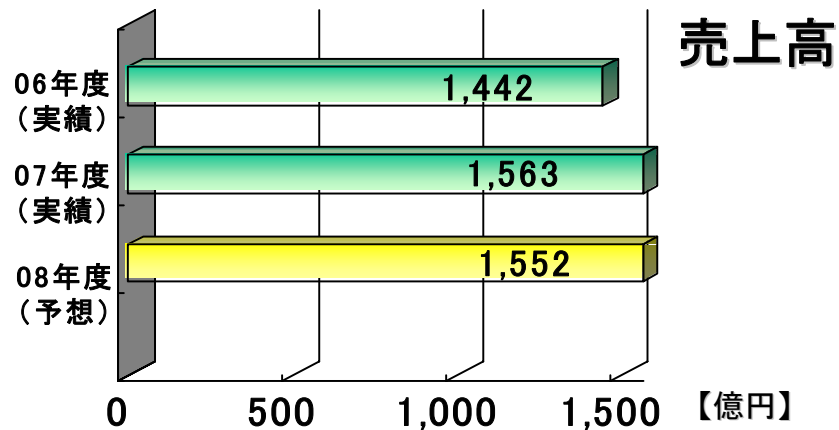
- 電子工業用薬品、電子材料など機能製品の販売数量増加やメタノール、高純度イソフタル酸の販売価格上昇により増収。売上高が初めて5,000億台となる。
- 減価償却方法の変更により、償却費が従来方法に比べ33億円増加するも、高純度イソフタル酸や電子材料の好調で、営業利益は過去最高の474億円。
- 持分法利益は、三菱エンジニアリングプラスチックスの配当収入減少も、海外メタノール会社の増益により、213億円と19億円の減少にとどまる。
- 年明け以降の急速な円高により為替差損を37億円計上し、経常利益は前期並みの618億円に止まる。
- 特別損益は、コエンザイムQ10製造設備の減損処理などで、差引き57億円の損失。

セグメント別 連結 2007年度実績

【億円】

	2007年度	2006年度	増減
売上高	5,193	4,826	367
天然ガス系化学品	1,563	1,442	121
芳香族化学品	1,452	1,347	105
機能化学品	1,539	1,431	108
特殊機能材	768	711	57
その他	11	12	▲ 1
消去または全社	▲ 140	▲ 116	▲ 24
営業利益	474	422	52
天然ガス系化学品	33	25	8
芳香族化学品	121	74	47
機能化学品	162	172	▲ 10
特殊機能材	152	145	7
その他	5	5	0
消去または全社	1	1	0

天然ガス系化学品



2007年度 実績

➤ メタノール

4月以降大幅に下落した市況は10月から高騰、再び500ドル超で推移し、増収。海外メタノール会社の持分法利益も、平均価格(2007年1~12月)が前期を40ドル程度上回り増益。

➤ メタノール・アンモニア系化学品

全般に需要堅調で、原料メタノール価格上昇を概ね製品価格に転嫁。アミン系製品は同業他社撤退で販売数量増加。採算改善するも、低い利益水準にとどまる。

➤ 酵素・補酵素類

コエンザイムQ10は、新規設備稼働で販売数量増加も、販売価格の下落で大幅減益。製造設備の減損処理を実施。

➤ 天然ガス・エネルギー販売

原油価格の上昇により増益。

2008年度 予想

市況は、1~6月を410~430ドル、7~12月を260~280ドルと想定。海外メタノール会社は、1~3月の市況高止まりと新規設備稼働の数量効果で、ドルベースでは増益も、円ベースの持分法利益は円高により減少。

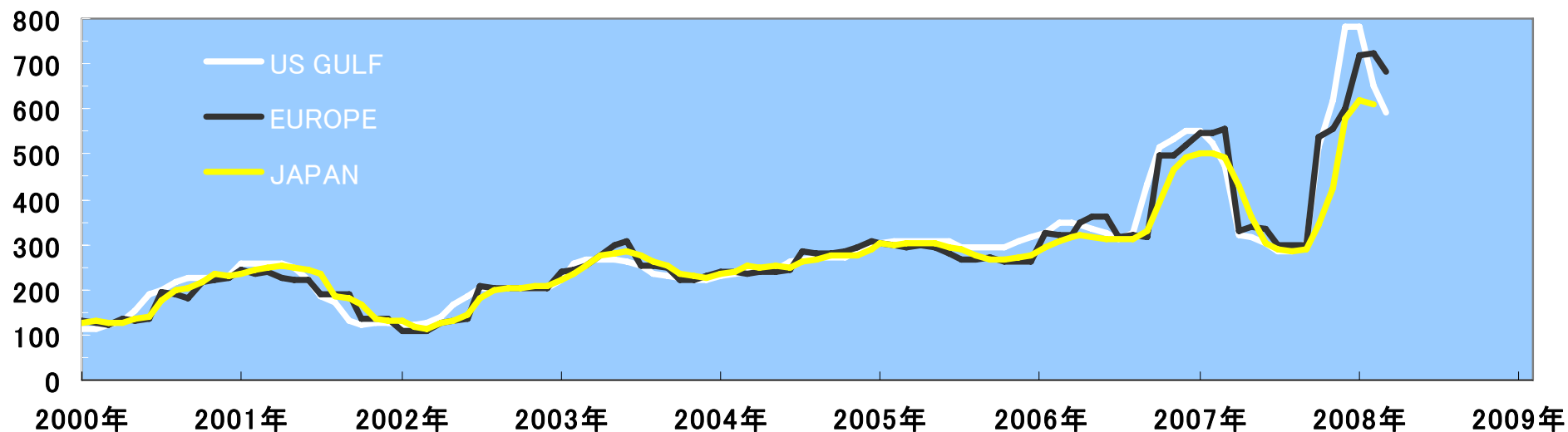
原料メタノール価格の低下により採算は改善するも、新潟工場の修繕費増加や新規ガス田探鉱による探鉱費25億円増加で、赤字の見通し。

前期減損処理による償却負担軽減の結果、採算改善するも、厳しい販売環境が継続すると想定。

原油価格の高止まりで前期並みの収益を維持。

天然ガス系化学品

メタノール価格の推移



(2008年の展望)

需給動向: 需要面は、アジアで比較的堅調な一方、北米は米国景気の減速に伴いホルマリン向けが弱含みで推移。

供給面は、メタネックスのチリプラントの低稼働継続を想定。新規稼働は、サウジアラビアのAR-RAZI5 (170万

トン: 2Q稼働)とマレーシアのペトロナス(170万トン: 年末稼働)。

中国では新增設が相次ぐも、燃料向け需要等の増加で吸収され、輸出圧力は増大せず。

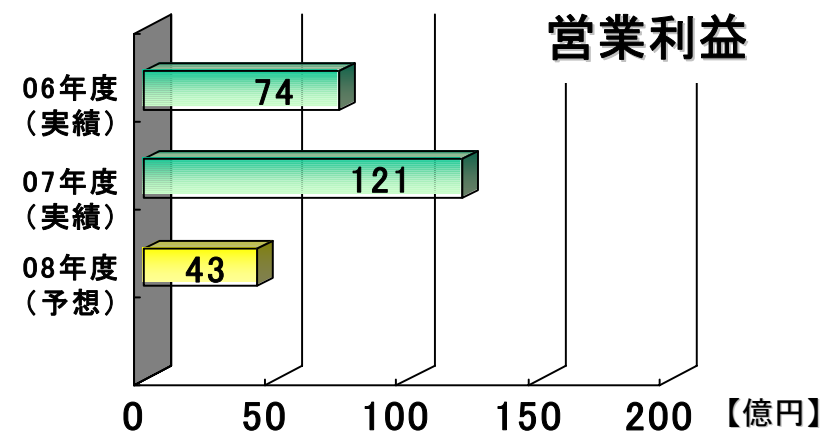
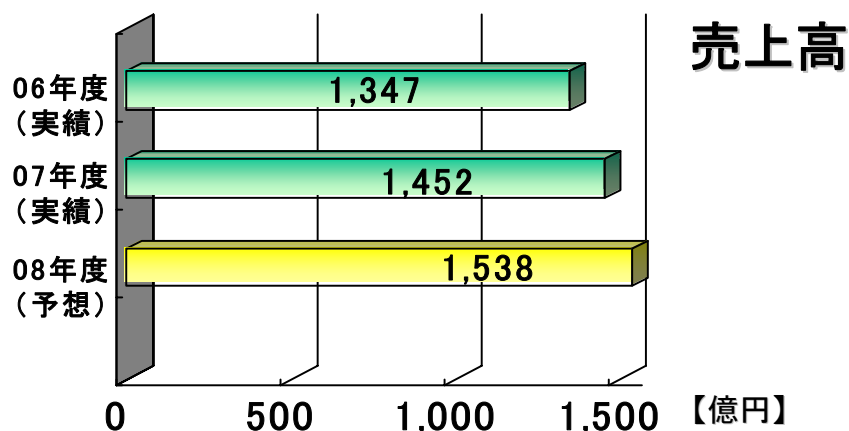
⇒ 価格動向: 市況は**AR-RAZI5**の稼働、ペトロナスの稼働に伴って軟化するも、

原油価格の水準を考慮すると300ドルを大きく下回ることはないと想定。

天然ガス系化学品 設備投資・製品開発動向

件名	動向	備考
天然ガス試掘	新潟県北蒲原沖合 2008年3月より試掘開始 ⇒ 岩船沖以来、25年ぶりの大型探鉱	当社負担費用:27億円
メタノール	サウジアラビア 170万t/y 4月完工、試運転中 (2008年2Q稼動) ベネズエラ 85万t/y 建設中 (2010年1Q稼動) ブルネイ 85万t/y 建設中 (2010年2Q稼動) 重慶 85万t/y FS中	
スピログリコール (SPG) ジオキサングリコール (DOG)	水島工場 新設1,500t/y (併産プラント) 試運転中 ⇒ SPGはSPG-PET「ALTESTER [®] 」の市場開拓を加速 DOGはブルーレイディスク向け接着剤等で引き合い活発	用途> SPG: 酸化防止剤など DOG: UV硬化樹脂など
燃料用 ジメチルエーテル (DME)	新潟工場 8万t/y 建設中 (2008年6月稼動) ⇒ 本年度は経済産業省にDME関連予算を確保して頂き LPG・重油焚き小型ボイラーへのDME普及促進を後押し	燃料DME製造株式会社による普及促進用プラント
特殊アミノ酸	新潟工場 建設中 (2008年10月稼動) ⇒ ユーザー認定取得済で、設備稼働後に本格販売開始	用途> 医薬品中間体
ピロロキノリンキノン (PQQ)	米国FDAの審査中で、近々認可の見込み ⇒ 認可が下り次第、本格販売開始	用途> 健康食品素材

芳香族化学品



2007年度 実績

下期にパラキシレンの事業再編スキームが完成。損益下ぶれリスクが解消し、特殊芳香族化学品に特化した収益構造へ転換。

メタキシレンジアミン(MXDA)、MXナイロンなどの特殊芳香族化学品は、原料価格上昇に伴う採算悪化に加え、固定費増加により前期を下回る。

エイ・ジイ・インタナショナル・ケミカル(AGIC)は、世界的な需給逼迫を反映した高純度イソフタル酸市況の高騰で大幅増収増益。

2008年度 予想

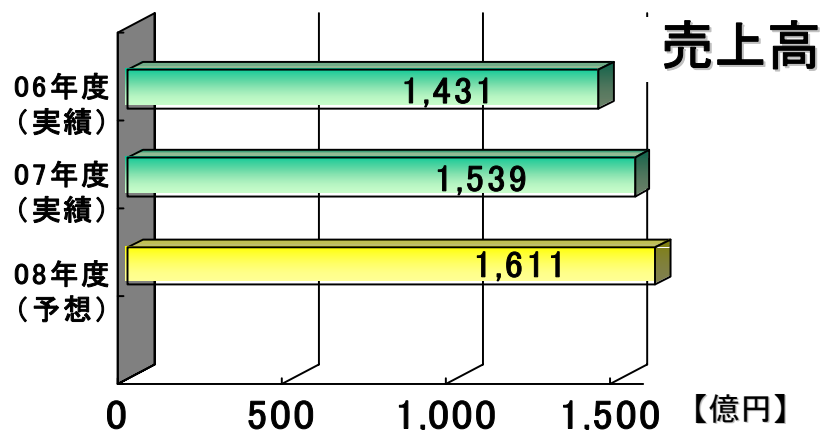
特殊芳香族化学品は、MXDAやMXナイロンの販売数量が新規設備の稼働に伴い大幅増加も、償却負担により減益の見込み。

高純度イソフタル酸は、AGICと韓国メーカーの新規設備稼働により、販売価格は前期を大きく下回る見込み。償却負担とあわせ大幅減益の見通し。

芳香族化学品 設備投資・製品開発動向

件名	動向	備考
メタキシレン	水島工場 7万t/y 建設中 (2009年11月稼働)	
MXナイロン	新潟工場とMGC Advanced Polymersは来期フル稼働 ⇒ 次期投資計画を早急に具体化	
高耐熱性無色透明 ポリアミドフィルム 「ネオプリム [®] 」	フレキシブルディスプレイや太陽電池向けを含め 実需化に向けて評価作業は着実に進捗 ⇒ 本格商業化に向け市場開発を加速	用途: 透明電極基板 (フレキシブルディスプレイ、光センサー、太陽電池等) 特徴: 高耐熱性、無色透明
ガスバリア性接着剤 「マクシーブ [®] 」	食品包装フィルム用接着剤と酸素バリア性塗料を ターゲットとして市場開発を推進し、採用始まる	用途: 食品包装、ほか 特徴: ガスバリア性を備えた接着剤
新規制振材料 「ネオフェード [®] 」	市場開発を推進中	用途: 制振材料、防音材料 特徴: 振動エネルギーを効率よく吸収する ポリエステル系材料

機能化学品



2007年度 実績

工業用無機薬品

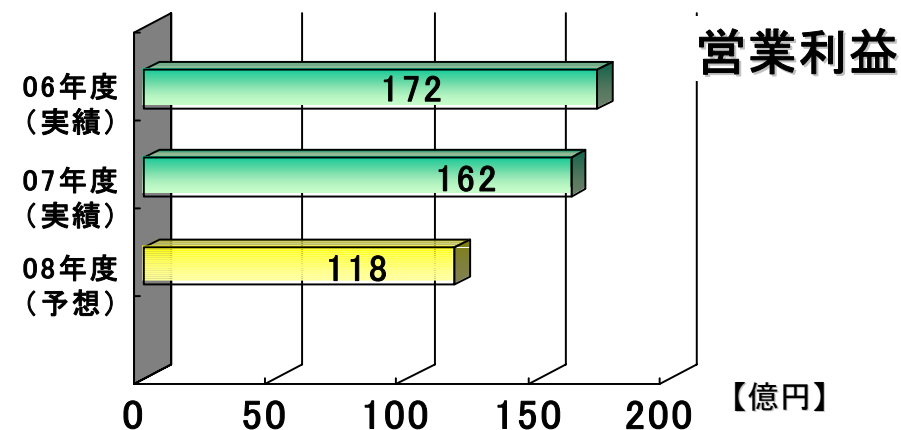
過酸化水素は、販売数量増加も、原燃料価格の上昇で前期並みの結果に止まる。

電子工業用薬品

上期に一部高付加価値製品がユーザー在庫調整の影響受けるも、下期に入り販売数量回復し、増収増益。

エンジニアリングプラスチック

電気・電子、自動車向けに需要好調も、PC、POMともに原料価格の高止まり・上昇により、マージン低下し前期を下回る。PCシート・フィルムは、販売数量増加も、販売価格の引き下げと償却負担により減益。



2008年度 予想

過酸化水素は国内需給が一層タイト化。再度の販売価格は正で、再投資可能な水準に採算改善を図る。

新規薬液を含め販売数量は大幅増加も、販売価格の低下と固定費の増加に加え、円高の影響で前期をやや下回る。

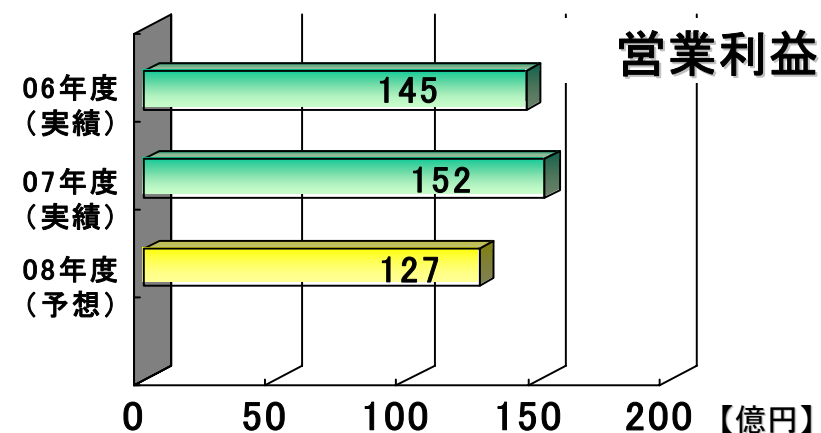
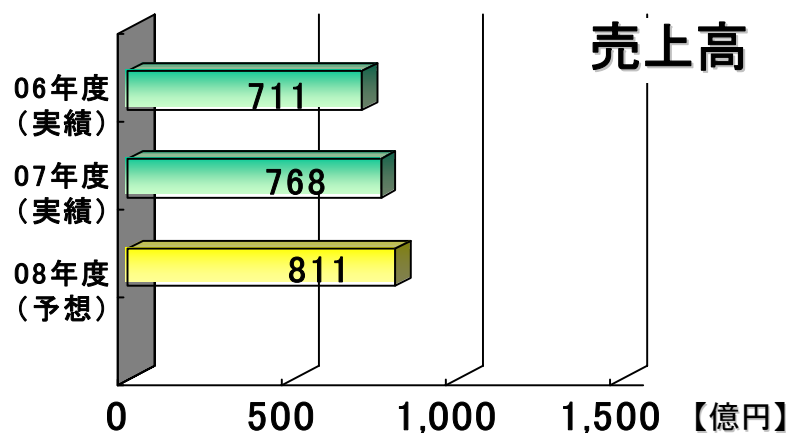
PCは、ビスフェノールA高止まりの中、需給緩和で販売価格低下し採算悪化。POMは販売数量・価格とも堅調で、タイ生産子会社は現地通貨ベースで増益も、円高の影響で前期並みにとどまる。

PCシート・フィルムは、ユーザー製品の販売不振の影響で、販売数量減少と販売価格低下により、前期を大幅に下回る。

機能化学品 設備投資・製品開発動向

件名	動向	備考
過酸化水素	中国 江蘇省 張家港 3万t/y規模の設備投資検討	
海外EL子会社	韓国 超純過酸化水素 4万t/yへ増強 (2007年末稼動) 台湾 超純過酸化水素 新設5千t/y (2007年末稼動) シンガポール 超純アンモニア水 増設2.5千t/y (2008年1月稼動) ⇒ 順調にユーザー認定取得し、販売数量を拡大	
ポリカーボネート	上海 新設8万t/y FS中 (2010年稼動を目標) ⇒ 最終調査を実施中 鹿島工場 1万t/y増強 (2008年10月実施) タイポリカーボネート 1万t/y増強 (2009年3月実施) ⇒ 上海拠点が稼働するまでの需要増加に対応 特殊ポリカーボネート設備建設を検討 ⇒ 他社との差別化でポリカーボネート事業を強化	
ポリカーボネート シート・フィルム	EMC対策製品:透明パターン型電波吸収体「FILSORBER®」 透明電磁波シールドシート「FILSHIELD®」 ノイズ抑制シート「ElnoS®」 ⇒ 液晶ディスプレイ向けフィルム、ハードコートシートに次ぐ 新規製品としてシート・フィルム事業を強化	EMC対策 > 不要な電磁波による 干渉を防止する対策
ポリアセタール	当社初となる東欧での事業化を検討中 ⇒ 東欧拠点稼働までの需要拡大に対応するため アジアの既存拠点における早急な増産を具体化へ	

特殊機能材



2007年度 実績

➤ 電子材料

銅箔などの原材料価格が高止まりするも、半導体パッケージ向けBT材料の受注が上半期好調で、メモリー向けなどに販売数量を伸ばし、増収増益。LEシートは、合理化によるコスト削減効果で増益。

➤ 脱酸素剤

エージレスタイの増強設備フル稼働が原価低減に寄与したものの、国内食品分野の競争激化で減益。

2008年度 予想

BT材料は、販売数量増加するも、半導体価格下落に伴い値下げ圧力が増大し、競合他社の攻勢で競争が激化。販売価格の軟化と償却負担により前期を下回る。高性能エポキシ材料は、ユーザー認定の進捗で販売数量増加。LEシートは堅調。

前期をやや下回る。

特殊機能材 電子材料売上高、世界半導体市場規模の推移



連結 2008年度予想

【億円】

	2008年度 予想	2007年度 実績	増減	協創2008 2008年度 計画
売上高	5,400	5,193	207	4,940
天然ガス系化学品	1,552	1,563	▲ 11	1,442
芳香族化学品	1,538	1,452	86	1,258
機能化学品	1611	1,539	72	1,530
特殊機能材	811	768	43	806
その他・消去	▲ 112	▲ 129	17	▲ 96
営業利益	300	474	▲ 174	475
天然ガス系化学品	3	33	▲ 30	93
芳香族化学品	43	121	▲ 78	79
機能化学品	118	162	▲ 44	178
特殊機能材	127	152	▲ 25	123
その他・消去	10	6	4	2
(持分法利益)	(190)	(213)	▲ 23	(106)
経常利益	450	618	▲ 168	550
税前利益	445	561	▲ 116	530
当期純利益	350	402	▲ 52	350

- 為替前提 100¥/US\$。
- 売上高は、機能製品の販売数量増加等により、207億円増加の5,400億円。
- 一部製品の採算悪化に加え、固定費の増加(減価償却費:100億円、修繕費:25億円、探鉱費:25億円、退職給付費用:20億円など)や円高の影響等により、営業利益は174億円減少の300億円。
- 持分法利益も23億円減少し、経常利益は168億円減少の450億円。
- 特別損益は52億円改善。
- 配当金は中間・期末とも8円を予定。

次期中計に向けて

◇ 3カ年の数値目標と実行計画の策定

- ① 協創2008期間中に実施した設備投資の成果の回収
⇒ メタノール(サウジアラビア)、メタキシレンジアミン、高純度イソフタル酸、銅張積層板など
- ② 新規製品群の早期上市・収益化
- ③ 大型海外プロジェクトの着実な実施
⇒ メタノール(ベネズエラ、ブルネイ)、過酸化水素(中国・張家港)、ポリカーボネート(中国・上海)など

◇ 長期的課題

- ① 新規事業創出に向けた取り組み
- ② アジアでのプレゼンス強化からグローバル展開に移行するための事業運営・経営管理体制

お問い合わせ先

三菱ガス化学株式会社

広報IR部(佐藤、西村)

TEL 03-3283-5041

FAX 03-3287-0833

<http://www.mgc.co.jp/>

E-mail: infoir@mgc.co.jp

<見通しに関する注意事項>

当資料に記載されている内容は、いくつかの前提に基づいたものであり、将来の計画数値や施策の実現を確約したり保証したりするものではありません。

1. 連結貸借対照表

(単位:億円)

	2007年度 期末	2006年度 期末	増減	増減率	メモ
現金及び預金	303	366	△ 63	△ 17.2%	減少理由：前年期末休日要因△23億円
受取手形・売掛金	1,397	1,518	△ 121	△ 8.0%	減少理由：前年期末休日要因△171億円
有価証券	84	64	20	31.3%	
棚卸資産	702	661	41	6.2%	
その他流動資産	201	150	51	34.0%	
＜流動資産計＞	2,687	2,759	△ 72	△ 2.6%	
有形固定資産	1,617	1,530	87	5.7%	増加理由：設備投資394、連結子会社の増加12、減価償却△245、設備減損△50億円
無形固定資産	30	29	1	3%	
投資その他の資産	1,680	1,782	△ 102	△ 5.7%	減少理由：投資有価証券の期末時価下落
＜固定資産計＞	3,327	3,341	△ 14	△ 0.4%	
資産合計	6,014	6,100	△ 86	△ 1.4%	
支払手形・買掛金	851	969	△ 118	△ 12.2%	減少理由：前年期末休日要因△153億円
有利子負債	1,506	1,639	△ 133	△ 8.1%	減少理由：借入・社債増減△142億円
その他負債	537	565	△ 28	△ 5.0%	減少理由：前年期末休日要因△44億円
負債計	2,894	3,173	△ 279	△ 8.8%	
資本金・資本剰余金	775	775	0	0%	
利益剰余金	2,220	1,887	333	17.6%	増加理由：当期純利益402億円
自己株式	△ 42	△ 41	△ 1	2.4%	
＜株主資本計＞	2,953	2,621	332	12.7%	
その他有価証券評価差額金	109	220	△ 111	△ 50.5%	減少理由：投資有価証券の期末時価下落
繰延ヘッジ損益	1	2	△ 1	△ 50.0%	
土地再評価差額金	2	2	0	0%	
為替換算調整勘定	△ 42	△ 9	△ 33	366.7%	
＜評価・換算差額等計＞	70	215	△ 145	△ 67.4%	自己資本比率：2006年度末 50.3%、 2007年度末 46.5%
＜少数株主持分＞	97	91	6	6.6%	
純資産計	3,120	2,927	193	6.6%	
負債及び資本合計	6,014	6,100	△ 86	△ 1.4%	

2. 連結キャッシュフロー

(単位: 億円)

	2007年度	2006年度	増減	メ モ (2007年度の主な内訳)
現金・現金同等物の期首残高	413	406	7	
営業活動によるCF	404	218	186	税前利益561億円、減価償却費245億円、減損損失50億円 持分法利益△213億円、法人税等支払△137億円、運転資金等△102億円
投資活動によるCF	△ 209	△ 140	△ 69	設備資金 △327億円、投融資資金等118億円
財務活動によるCF	△ 223	△ 88	△ 135	借入金・社債増減 △142億円、配当金支払 △81億円
現金・現金同等物に係る換算差額	△ 18	△ 1	△ 17	
現金・現金同等物の純増減額	△ 46	△ 11	△ 35	
合併による現金・現金同等物増加額	-	8	△ 8	
連結追加による期首現金・現金同等物増減	6	10	△ 4	
現金・現金同等物の期末残高	372	413	△ 41	

3. 各種指標推移(連結)

(単位:億円)

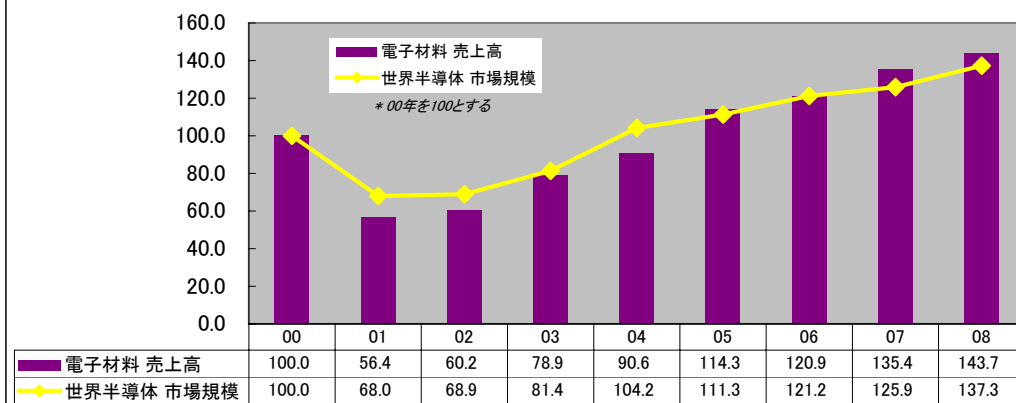
	2006年度 実績	2007年度 実績	2008年度 予想	増減			増減率		
				05→06	06→07	07→08	05→06	06→07	07→08
設備投資額 (うち上期)	295 147	394 160	400 200	120 76	99 13	6 40	68.6% 107.0%	33.6% 8.8%	1.5% 25.0%
減価償却費 (うち上期)	注) 198 91	245 110	345 160	10 1	47 19	100 50	5.3% 1.1%	23.7% 20.9%	40.8% 45.5%
研究開発費 (うち上期)	115 58	136 66	151 73	9 5	21 8	15 7	8.5% 9.4%	18.3% 13.8%	11.0% 10.6%
人員 (年度末時点)	4,561人	4,686人	4,787人	95	125	101	2.1%	2.7%	2.2%
一株当り 当期利益	86.6円	87.0円	75.7円	15.6円	0.4円	△11.3円			
ROA (総資産経常利益率)	10.5%	10.2%	7.2%	1.0pts	△0.3pts	△3.0pts			
ROE (自己資本経常利益率)	23.1%	21.1%	14.2%	0.9pts	△2.0pts	△6.9pts			
配当額 (うち上期)	14.0円 6.0円	16.0円 8.0円	16.0円 8.0円	4.0円 2.0円	2.0円 2.0円	0.0円 0.0円			

注) 2006年度の減価償却費は、特損に計上した88億円を除いた額となっております。

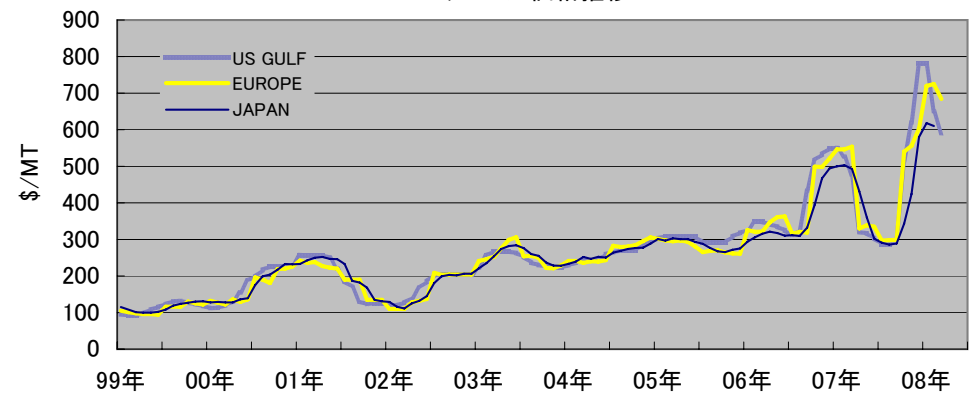
4. 経営環境

	2006年度実績		2007年度実績		2008年度予想		メモ
	1~6月	7~12月	1~6月	7~12月	1~6月	7~12月	
メタノール市況 (US\$/MT)	280~300	370~390	370~390	360~380	410~430	260~280	
	上期	下期	上期	下期	上期	下期	メモ
原料キシレン 公示価格(円/kg)	99	96	108	103	102	102	
ビスフェノールA (US\$/MT)	1,200 ~1,600	1,600 ~1,700	1,800 ~2,000	1,800 ~2,000	1,800 ~2,000	1,800 ~2,000	主要平均CIF価格
ポリカーボネート (US\$/MT)	2,900 ~3,100	2,400 ~2,750	2,600 ~2,850	2,400 ~2,850	2,450 ~2,800	2,450 ~2,850	日本からの輸出通関統計数値(FOB価格ベース)
為替 (円/US\$)	115	119	119	109	100	100	

電子材料売上高および世界半導体市場規模の推移



メタノール価格推移



5. 単体業績実績・予想

(単位:億円)

	2006年度 実績	2007年度 実績	2008年度 予想	増減		メモ																																													
				06→07	07→08																																														
売上高	3,552	3,729	3,890	177	161																																														
天然ガス系化学品	1,022	1,112	1,062	90	▲ 50	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">売上高要因分析</th> <th rowspan="2">06年度</th> <th rowspan="2">07年度</th> <th colspan="3">対前年度</th> </tr> <tr> <th>増減</th> <th>価格要因</th> <th>数量要因</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>天然ガス系化学品</td> <td>1,022</td> <td>1,112</td> <td>90</td> <td>49</td> <td>41</td> </tr> <tr> <td>芳香族化学品</td> <td>973</td> <td>1,040</td> <td>67</td> <td>66</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>機能化学品</td> <td>1,023</td> <td>989</td> <td>▲ 34</td> <td>42</td> <td>▲ 76</td> </tr> <tr> <td>特殊機能材</td> <td>534</td> <td>588</td> <td>54</td> <td>4</td> <td>50</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>-</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>3,552</td> <td>3,729</td> <td>177</td> <td>162</td> <td>15</td> </tr> </tbody> </table>	売上高要因分析	06年度	07年度	対前年度			増減	価格要因	数量要因	天然ガス系化学品	1,022	1,112	90	49	41	芳香族化学品	973	1,040	67	66	1	機能化学品	1,023	989	▲ 34	42	▲ 76	特殊機能材	534	588	54	4	50	その他	0	0	0	-	0	合計	3,552	3,729	177	162	15
売上高要因分析	06年度	07年度	対前年度																																																
			増減	価格要因	数量要因																																														
天然ガス系化学品	1,022	1,112	90	49	41																																														
芳香族化学品	973	1,040	67	66	1																																														
機能化学品	1,023	989	▲ 34	42	▲ 76																																														
特殊機能材	534	588	54	4	50																																														
その他	0	0	0	-	0																																														
合計	3,552	3,729	177	162	15																																														
芳香族化学品	973	1,040	1,118	67	78																																														
機能化学品	1,023	989	1,088	▲ 34	99																																														
特殊機能材	534	588	617	54	29																																														
その他	0	0	5	0	5																																														
営業利益	197	200	160	3	▲ 40																																														
営業外損益	118	169	155	51	▲ 14																																														
経常利益	315	369	315	54	▲ 54																																														
特別損益	▲ 67	▲ 37	0	30	37																																														
税引前当期純利益	248	332	315	84	▲ 17																																														
法人税、住民税及び事業税 法人税等調整額	45	46	40	1	▲ 6																																														
当期純利益	203	285	275	82	▲ 10																																														